

# 健康メモ

## ひぶんしょう さんどう 飛蚊症と散瞳検査

山代眼科医院副院長  
広島市医師会理事

山代 浩人



これを読んで  
おられる皆さん  
の中には、視界  
の中に黒っぽい  
影が見える方も  
多いのではないで  
しょうか？この症  
状のことを飛蚊症  
(ひぶんしょう)  
と言います。飛蚊  
症は目の奥の方に  
ある硝子体(しよ  
うしたい)に濁り  
があることを意味  
します。硝子体の  
位置は、カメラで  
言えばレンズとフ  
イルムの間の空間  
に当たるので、こ  
の部分に濁りがあ  
るときれいに写真

が撮れないのと同じように、私たちの見え方としては視界の中に影が見えるわけです。実際の目の中では、硝子体はゼリーに似た組織で目の中で動きます。そのため硝子体に濁りがあるとそれも目の中で動き、自覚的には目を動かすと影もそれにつれて動くのが特徴です。

さて飛蚊症を起こした時にはどんな原因があるのでしょうか？原因は加齢である場合も多いのですが、網膜剥離や眼底出血、ぶどう膜炎などの怖い病気が原因になっている場合があります。これらの病気はいずれも失明につながる可能性があり、早く治療を開始したほうがよいものばかりです。例えば網膜剥離は、発見が早ければ入院も手術も必要のないレーザー治療ですみますが、発見が遅れ網膜剥離を起こしてしまえば、入院をして手術をしなければいけなくなります。術後の安静もつらいですし、できれば手術せずに治療する

ことが望ましいのは言えません。

これらの病気を起こすのを調べるためには、眼底検査を受ける必要があるのでひとつ知っておきたいのは、これらの病気も端の方に原因があるで、目薬で瞳を大きく(散瞳)検査をしなければいけません。散瞳するとその後六、七時間ほど視界がぼやけるので、車で散瞳検査ができません。また別の日に来ていた二度手間にもなりましてもそれらの病気の発見になるかもしれません。おられる皆さん、飛蚊症が気になったらなるべく早いうちに眼科に。そしてその際は車を運転しないで受診してください。